

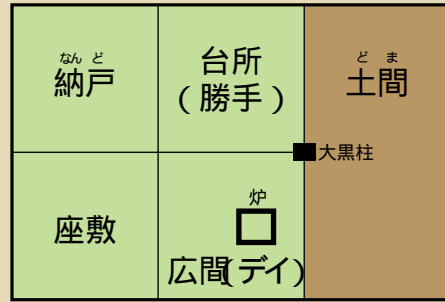
民家を訪ねて

島根の民家大集合

民家とは、庶民が住む住宅一般をさすことが多いのですが、文化財としての民家は、江戸時代に建てられたが、江戸時代以来伝わる伝統的な建て方をした、農家や町屋のような住居のことをいいます。民家は島根県内のあちこちに、ひっそりと残っています。もちろん、建てられた当時そのままの姿で残っているわけではありませんが、人の生活の変化とともに少しずつ形を変えながら、今日まで当時の面影を伝えています。

ここに紹介する民家の大部分は、文化財として国や県から指定を受けたものです。古代の竝穴住居や掘立柱建物の伝統を受け継ぎ、それぞれの風土や生業などに適応したさまざまな民家が見られます。民家は木材が豊富に使われ、屋根は多くが茅葺きです。そこにはまわりの自然と無理なく調和し、何の違和感もない風景が広がっています。われわれの祖先が伝えてきたものはどんなものだったのか、思わず耳を傾けたくなってきました。

民家の基本的な間取り
民家の母屋は、家族が起居する「床」と、作業・収納・炊事を兼ねた「土間」からなる。床上は「田の字型」と呼ばれる四間取りが、全国的にほぼ共通している。



旧道面家内部



佐々木家住宅（西郷町釜）

国指定重要文化財
隠岐島後の東海岸に位置する釜村の豪農・佐々木家の旧宅である。この家は江戸中期の寛政4年(1792)に建てられたものである。建築当初の形式をよく残しており、激しい風雨などに対応するため棟が低く、杉皮で葺いた屋根に800個もの石がのせてあるのが大きな特徴である。



上から見た佐々木家住宅



都万目の民家（五箇村郡）

県指定有形民俗文化財
もとは西郷町上西字都万目にあったものを、1975年に移築して保存している。隠岐島後の大型農家に見られる代表的な住まい。築造は幕末ごろから明治の初めごろと推定される。



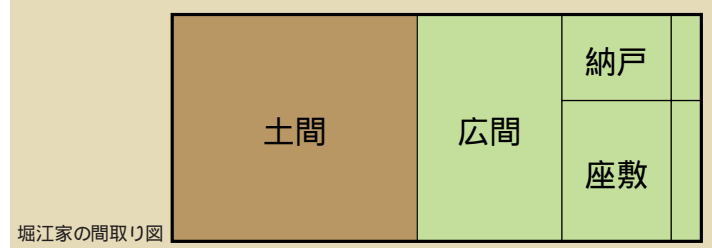
億岐家住宅（西郷町下西）

国指定重要文化財
近接する玉若酢命神社の祭礼を司る、億岐家の社家として建てられた。この建物はほぼ同規模の前身建物を解体し、一部を新材に改めるなどして享和元年(1801)に完成したものである。社家住居として特徴ある形式を伝えているとともに、玉若酢命神社と一体の景観をなし、境内の構成を良好にしている。

隠岐

堀江家住宅（吉田村民谷）

国指定重要文化財
堀江家は、江戸時代終りごろ(文化・文政年間=19世紀前半)の主人が古家を買って入居したのがこの住宅らしい。この家自体の建築は江戸時代中期(18世紀前半)とされ、この地方の民家としてはもっとも古いものである。出雲地方から岡山・鳥取県の山間部に分布する広間が床の半分を占める三間取り型農家の典型的な例として貴重である。



堀江家の間取り図

出雲平野の築地松のある農家（斐川町）

強い季節風から建物を守るため、築地松が造られた。母屋の屋根の棟がぐっと反っているのが、この地方の民家の特徴である。



出雲



西周旧居（津和野町町田）

国指定史跡
島根を代表する明治の哲学者・西周の旧居である。周は天保3年(1832)4才のときに父母とともにこの屋敷に移り住み、嘉永6年(1853)まで起居していたらしい。ただし周が居住した母屋は、残念ながら嘉永6年の大火により焼失してしまい、現在あるのはその後再建されたものである。

宗岡家住宅（大田市大森町）

宗岡家は、銀山で名高い大田市大森に残る役人の屋敷の一つであり、築造は18世紀末ごろと思われる。入口など正面部分はのちに改造されているが、四間取り形式の内部は保存がよく、武士の住宅としての格式をうかがい知ることができる。往時の大森の町並みの一端を垣間見ることができる重要な資料といえよう。



旧道面家住宅（六日市町注連川）

国指定重要文化財
江戸時代文化・文政ごろ(19世紀前半)に建てられた住宅。当時の庶民の住宅の実態をよく残している。屋根は茅葺きで軒下を低くし、冬季の寒さを防ぐ工夫がしてある。

石見